

平成 25 年度第 3 回 小金井ボランティア・市民活動センター
運営委員会 議事録

1. 日 時 平成 26 年 3 月 25 日 (火) 午後 6 時 30～午後 8 時 45 分

2. 場 所 福社会館 2 階 会議室

3. 出 席 者 運営委員 (11 名)

山路 憲夫 亘理 千鶴子 古明地 節子 渡辺 一弘

緒方 澄子 森田 眞希 平野 尚 天野 文隆

梶野 ひづる 雨宮 安雄 熊谷 紀良

事務局

泉 浩事務局長 大木 克之事務局次長

小早川 良信係長 近江屋 哉子主事

市民協働支援センター準備室

福田 協司市民協働推進員

4. 議 題

1) 新任委員自己紹介

2) 委員長・副委員長の互選について

3) 事業報告について(H25 年 11 月～H26 年 3 月)

4) 地域福祉コーディネーター事業について

5) 市民協働支援センター準備室の活動状況等について

6) 平成 26 年度事業計画について

7) 運営委員会のあり方について

5. 経 過

泉事務局長より平成 25 年度第 3 回小金井ボランティア・市民活動センター運営委員会の開会が告げられた。

本日の会義は第 5 期の委員による最初の会議であるため、新委員長及び副委員長が選任されるまで事務局で会議を進行させていただく、との発言があった。

その後、事務局より本日の議題が紹介され、続いて今年 1 月に退任した加藤 進市民協働推進員の後任である福田 協司市民協働推進員を紹介し、福田市民協働

推進員より挨拶があった。

1) 新任委員自己紹介

今回は第5期の委員による最初の会議であるため、出席の全委員に自己紹介をしていただき、続いて事務局が自己紹介を行なった。

2) 委員長・副委員長の互選について

事務局長より新しい委員長・副委員長の推薦を委員に求めたところ、複数の委員から「事務局一任」の声があったので、事務局案を提示する事について諮ったところ全員のご了承が得られ、事務局は新委員長には山路 憲夫（やまじ のりお）委員を、新副委員長には亙理 千鶴子（わたり ちずこ）委員にお願いする事とし、この件についても諮ったところ、全員の了承が得られ、委員長と副委員長には山路 憲夫委員と亙理 千鶴子委員が選ばれたので、山路 憲夫委員長と亙理 千鶴子副委員長に夫々ご挨拶を頂き、以降の議事進行は山路憲夫委員長にお願いした。

3) 事業報告について(H25年11月～H26年3月)

委員長より事業報告を求められたので、事務局は資料に基づいて平成25年11月16日から平成26年3月15日までの小金井ボランティア・市民活動センター（以下「ボランティアセンター」という）の活動の中で、こがねい市民活動まつりで開催した避難者交流会について重点的に報告した。

委員長よりこの報告についての質問、意見を求められ、以下の質疑応答並びに意見が交わされた。

（雨宮 安雄委員）

東日本大震災で被災された人で小金井市に住んでおられる人は何人位おられますか。

（事務局）

30世帯59名でしたが、社協ではこの中の約三分の一の人達の情報を持っていましたので、その人達へ電話で交流会への参加を呼びかけたのですが、既に地方へ戻られた人が多かったです。

(雨宮 安雄委員)

避難者交流会に参加された人達の県別の人数は分かりませんか。

(事務局)

ここに名簿は持って来ていませんが、福島県の人達が圧倒的に多いです。

(古明地 節子委員)

避難者交流会は 5 市の社協共催という事でしたが、持ち回りで開催しておられるのですか。

(事務局)

幹事は持ち回りで今回の幹事は三鷹市の社協でしたが、「小金井市で市民活動まつりが開かれるので、その中で避難者交流会をやろう」という事になり、小金井市で開催しました。

(古明地 節子委員)

この交流会は毎年、小金井市で開催するのですか。

(事務局)

それについては 5 市の社協による話し合いになると思います。

(事務局)

“みどり号” を使ってのバス旅行等を企画しても良いと思いましたが、「今回のようなイベントを継続していきたい」というのが 5 市の社協の皆さんの意見でした。

この交流会は大変盛況で、東京都や福島県の職員の人達も来てくださりまして、「こんなににぎやかな交流会は初めてです」と云っておられました。

(山路 憲夫委員長)

近江屋さんの報告では「避難者交流会には小金井市在住の被災者の人は一人も参加されなかった」という事でしたが、区あるいは他の市に住んでおられる避難者の人達がわざわざ小金井市に来られたという事ですか。

(事務局)

はい。その通りです。

(山路 憲夫委員長)

そうすると、このようなイベントがいろいろな所で開かれれば、そこへ行って交流を求めておられる避難者の人が多いという事ですかね。

(森田 眞希委員)

今、この時期だからこそ多いのだと思います。

先日、清瀬市の団体の人と話をした時に、避難者で自殺をする人もいると聞きましたので、このような交流会は大事な集まりだと思います。

(山路 憲夫委員長)

小金井の社協だけでなく、他の地域でも避難者の交流会はいろいろな形で開かれているという事ですか。

(事務局)

小平市や西東京市などの北多摩ブロックの社協では“たまちゃんシックス”という名前の避難者支援のプロジェクトを作り活動をしていまして、ここは参加者がかなり多いと伺っています。

私共のブロックは避難して来られた人が少なく、狛江市に避難されている人達は10世帯にも満たない、と聞いています。

(事務局)

やはり西東京市や武蔵野市へ避難して来られた人達が多いようです。

また、孤立予防という事で社協が避難者の戸別訪問等を行なって支援をしていることを聞きましたので、小金井市の社協でも戸別訪問を含めた取り組みが出来れば良いと思っています。

交流会へのお誘いの電話を皆さんに掛けましたが、宮城県から避難して来られた人から「介護のために参加出来ない」と云われたので、お話を聞いてみると“要介護4”のご主人の介護をしておられるとの事でした。

その女性は介護保険のサービスも受けておらず、しかも何処に相談をしたら良いの

かも分からない、と云っておられたので地域包括支援センターの担当者と一緒にご自宅を訪問して、介護保険の事やいろいろな話をして来ましたので、次に繋げる事が出来たのではないかと思います。

このように交流会等に参加出来る人達より、参加出来ない人達の方が心配だと思いましたが、情報があれば個々に連絡を取る事で支援に繋げていく事が出来るのではないかと思います。

(雨宮 安雄委員)

それは個人情報の関係で教えてもらえないという事なのか、或は個人情報が分かっている訪問しても会ってくれないという事ですか。

(事務局)

個人情報がもらえないという事です。

東京都からもらった個人情報は「社協等に情報提供をしても良い」という同意を得た人達だけの名簿で、小金井市に避難して来られた人達の情報はボランティアセンターでは殆ど持っていません。

(古明地 節子委員)

小金井市で開く避難者交流会の情報を、同じ市内に住んでおられる避難者に提供出来ないのは勿体ないような気がします。

被災地から転居して来られた人達は住民登録等をされますから、行政側では情報を持っておられるわけですね。

(梶野 ひづる委員)

住民登録をただけでは避難をしてこられたか否かの判断はしていませんし、出来ません。

ただ、地域安全課では避難者リストは持っています。

(古明地 節子委員)

今のお話のように、要介護4になっているような人がここに避難して来られて、もしもの事があつたら大変ですから、行政側や民生委員さん、或は関係する機関等から地域サービスの情報提供が出来て、すぐに手が差し伸べられるような体制が必要だと

思います。

(山路 憲夫委員長)

その事については行政側としても取り組んでいると思いますし、今回のイベントでも地域安全課が把握している避難者の人達には、情報が提供されているわけですね。

(事務局)

地域安全課から電話をしていただきました。

(山路 憲夫委員長)

電話でお知らせしても、結果的には参加されなかったという事ですが、これらの人達を含めて、これからどのように支援していくのかが大きな課題だと思います。

(雨宮 安雄委員)

被災地で 1 年間ボランティアをした人から私が聞いたところでは、避難した人達は“同じ地域の人達で集まりたい”という要望が多いという事でしたので、小金井在住の 59 名の避難者の人達が何処から来られたのかを知りたかったし、それによっては今回のイベントへの参加者も増えたのではないかと思って、県別の避難者数をお聞きしました。

(山路 憲夫委員長)

それはこれからの大きな課題だと思います。

他にご意見はありませんか。

ご意見も無いようなので次の議題に移ります。

4) 地域福祉コーディネーター事業について

委員長より地域福祉コーディネーター事業について説明を求められたので、事務局は資料に基づいて平成 26 年 3 月 15 日現在の状況を説明した。

委員長よりこの説明についての質問、意見を求められ、以下の質疑応答並びに意見が交わされた。

(山路 憲夫委員長)

地域福祉コーディネーター事業をいよいよ始める、という事ですね。

どのような形で何をやるのかについて、この場でもご意見を頂ければと思いますが、具体的な中身作りはこれからですか。

(事務局)

社協の計画では市を四つの圏域に分けてある中の“にし包括支援センター”がある西地域から先ず実施していきたいと思っています。

西地域とは武蔵小金井駅を起点にして北は小平市まで、西は国分寺市までの地域です。

(山路 憲夫委員長)

四つの地域に分けたその中の一つの西地域をモデルとして、そこに地域福祉コーディネーターを1名置いて、いろいろな事に取り組んでいこう、という事ですね。

(事務局)

先ずはネットワーク会議とか、町会の会議とかいろいろな会議に参加する等、いろいろな所に顔を出して、“地域福祉コーディネーターとしてこのような活動をしていきたい”という事を皆さんに理解してもらおう事から始めるのが良いではないかと思っています。

将来的には夫々の地域の人達に参加してもらってネットワークを作り、その中で見守りであるとか、いろいろな活動を住民の人達に担ってもらい、それを地域福祉コーディネーターが支援していくような形で進めていきたいと思っています。

(山路 憲夫委員長)

これについて何かご意見、ご提案等はありませんか。

(古明地 節子 委員)

事務局の案は良いと思いました。

にし地域包括支援センターは社協が市から委託を受けて運営している所で、そこに福祉コーディネーターがいればその地域の状況が良く見えるようになると思います。

(山路 憲夫委員長)

資料によれば週に 2 日位の勤務となっていますが、適任者がいれば新年度早々から始めるという事でしょうか、或は既に決まった人がおられるのでしょうか。

(事務局)

人選はこれからです。

地域福祉コーディネーターはスキルと申しますか、センスのある人でないと地域で実践的な活動が出来ないと思っています。

週に 2 日程度の勤務ですが、どなたかいい人がおられたらご紹介頂けると有り難いです。

こちらでも NPO の人達やいろいろな人達に紹介をして頂くようお願いをしながら、公募という形をとるよりもこの方法が良いと思っています。

(森田 眞希委員)

週に 2 日の勤務とはいえ、重要な役割だと思っています。

私達も地域包括ケアシステムフォーラムを企画し、いろいろな所で開いてきて感じた事は、いくら立派なシステムを作っても、そこでコーディネーターとして動く人の如何にかかってくるという事でした。

(山路 憲夫委員長)

立ち入った話になりますが週に 2 日だと、時給制になるわけですね。

収入の問題も多少は大事ですから、頼む以上はどのような労働条件なのか、どの位の予算化がされているのか等をざっくりばらんにお話しておく方が、多分頼み易いと思います。

(事務局)

毎週、曜日を決めて勤務して頂くというよりも、例えば市民活動連絡会等の夜の会議も多いと思いますので、夜の活動にも参加してもらえるようなフレキシブルに動ける体制がいいのではないかと考えています。

(山路 憲夫委員長)

この会の委員の皆さんは、夫々の地域でネットワークと申しますか多くの人脈をお

持ちなので、どなたかをご推薦を頂きたい、というのが事務局からの要望だそうです。

(古明地 節子委員)

地域福祉コーディネーターになる人は“にし包括地域センター”の圏域に在住しておられる人か否かは関係ないという事ですか。

(事務局)

はい。関係ありません。

(雨宮 安雄委員)

あくまでも“にし包括支援センター”の圏域だけを担当する地域福祉コーディネーターという事なのか、或は4ヶ所の地域包括支援センターの圏域を担当するコーディネーターの中の一人という事ですか。

(事務局)

モデル地区で試しに実施してみるという事で、最初に“にし地区”に配置する事にしました。

(山路 憲夫委員長)

人選については事務局で進めています、どなたか適任者がおられたら、是非ご推薦をお願いします。

他にご意見があれば頂きたいのですが、如何でしょうか。

ご意見も無いようなので次の議題に移ります。

5) 市民協働支援センター準備室の活動状況等について

委員長より市民協働支援センター準備室の活動状況等について説明を求められたので、福田 協司市民協働推進員は資料に基づいて平成26年3月17日現在の活動状況を説明した。

委員長よりこの説明についての質問、意見を求められ、以下の質疑応答並びに意見が交わされた。

(山路 憲夫委員長)

前任者とは市民協働センター構想と一緒に纏め、市民協働あり方検討委員会を小金井市役所の中で開いた経緯があり、そこでは明確な答えは出なかったのですが、その後、市の動きに何か進展はありましたでしょうか。

(福田 協司市民協働推進員)

市からは明確な動きについては未だお聞きしていませんが、職員の報告会であるとか、或は各活動団体の代表者の話をそれぞれお聞きした範囲では、“それぞれの地域住民の皆さんには力がある”と感じました。

あとは市民の皆さんが力を出し易く、また、“良かった”と喜んでもらえるような動きになっていけば良いと思っています。

ただ、準備室としては何処までやれるか分かりませんが、精一杯取組んでいきたいと考えています。

(森田 眞希委員)

この“準備室”という名前が出来ただけ早く外れる事を期待しています。

(山路 憲夫委員長)

この件では課長にもお伺いしたいのですが、市でも計画が進展しているという事はないですか。

(梶野 ひづる委員)

今日は担当部署のコミュニティ文化課長が欠席していますのでお答え出来ません。

(山路 憲夫委員長)

確かに“準備室”という名前を早く外してもらいたい、というのが我々の共通の思いです。

(山路 憲夫委員長)

他にご意見が無ければこの件については終わらせて頂き、次の議題に移ります。

6) 平成 26 年度事業計画について

委員長より平成 26 年度事業計画について説明を求められたので、事務局は資料に基づいて説明した。

委員長よりこの説明についての質問、意見を求められ、以下の質疑応答並びに意見が交わされた。

(森田 眞希 委員)

資料 2 頁の福祉教育の項目の中で「小・中学生が、“地域の中で何か自分たちに来ることがあるのではないか”と自分から考えるような福祉教育が出来れば良い」と述べておられましたが、これに関連するような事がありました。

先日の大雪の時に“また明日”の前の雪かきを、いつもここに来てくれている小学校 5 年生の男の子とその母親が手伝ってくれました。

雪かきをしている時にその母親が「困った時にはこのようにお互いに助け合うものなのだよ」と子どもに云って、一緒に雪かきを手伝ってくれました。

また、私たちは大雪の翌日から大きなショベルを車に積んで、施設利用者の皆さんのお宅を一軒ずつ雪かきしながら迎えに行きましたが、その中の一軒だけは雪かきが出来てありまして、そこは近所に住む若者達が雪かきをしてくれた、という事でした。

例えば今迄にボランティアセンターのボランティアに参加した子ども達を登録しておき、今回の大雪のように何か困った時に一斉メールで協力を呼びかける事が出来るようになれば良いと思いました。

もう 1 点は資料 4 頁の“災害時の体制整備の強化について”ですが、これは子どもの分野についてはまだまだ不十分なので、これについても是非働きかけをして頂きたいと思います。

ただ、新年度以降、この災害時の体制整備の強化は前進すると確信していますのでよろしくお願いします。

(熊谷 紀良 委員)

沢山の事業がありますので、一つの事業で 2 倍、3 倍の効果を上げるためには、夫々予定している事業に対して、強化していく点をどのように共通にしていくのか、という事が大切だと思います。

災害時の体制整備のところで子どもの事の話をするのであれば、子どもの遊び場づ

くりの推進についても一緒に話が出来るとでしょうし、或はボランティア体験プログラムでは災害体験の実施についても併せて検討する事も出来ると思います。

そう考えると、夫々の事業で“こうやろう”と思っていることが、テーマとしてお互いに乗り入れが出来ようになるのではないかと思います。

そのためには例えば子どもとか、体験プログラムとか、大学生とか、幾つかのキーワードを使って、複数の事業でキーワードに沿って乗り入れる事が出来るものが有るか否かをスタッフの皆さんで話し合ってもらい、乗り入れが出来ることがあれば、そのところを強化して頂ければ良いのではないかと思います。

(平野 尚委員)

先程の雪かきの話の中で出た「ボランティアセンターから一斉メールで送信するのはどうか」という提案は大変良い事だと思いますが、その提案をこのままにしておくとも来年も再来年もまた、同じ問題が繰り返される事になるだろうと思います。

従ってこのような意見が出たら、どこかで“ボランティアセンターから一斉メールで送信をする”ことを一歩進めれば、そこで地域の役割が出来てきますから、実施するのであればそのように決めてしまった方が良いと思います。

メール送信の依頼内容が雪かきなのか、掃除なのか、水害なのか或は嵐の後始末なのか、いろいろあると思いますが、「一斉送信しますから、皆さん来てください」と呼びかけることで、10人集まれば一つのチームになると思いますので、このような事から始めない限り、総論は賛成だが各論では始まらないという事になり、10年後も同じだろうと思います。

せつかくこのような良い意見が出たのですから、実施する方向で進めると良いと思います。

(山路 憲夫委員長)

やはりこのような事をきっかけに具体的なルール作りを進める、という事ですね。

これは学校教育の部分でもありますから、そのことは教育委員会でも当然考えていると思います。

(平野 尚委員)

夫々の地域にはボランティアセンターに係わりのある人達が沢山います。

そこには仕事として関わっている人も居るとでしょうし、いろいろな形で関わって

る人達が沢山いますが、この人達の中には何か活動したくても機会がないために活動出来ない、という人が多いと思います。

そこでボランティアセンター主導で“一斉メール送信”を立ち上げれば、皆さんは協力してくれるでしょうし、連携も取れるようになると思います。

(山路 憲夫委員長)

とりあえず地域で、という事ですね。

(熊谷 紀良委員)

夏の体験ボランティアには多くの子どもたちが参加者していますから、最初はこの参加者を対象として始める方法もあると思います。

(山路 憲夫委員長)

確かに地域でも、「やろう」と誰かが云えば動きますから、出来ればそのような仕組みを作りたいですね。

それではこの件は事務局で具体的に検討して頂きたいと思います。

その他にご意見はございませんか。

(亘理 千鶴子副委員長)

資料 2 頁に新しい事業として“ひきこもり支援”が載っていますが、どのような経緯から新規事業として取り組むことになったのですか。

また、相談窓口を設置する事になっていますが、対象者はひきこもりの人だけでしょうか。

不登校の子供もその対象に含めて良いのではないかと思います。如何でしょうか。

(事務局)

ひきこもり支援をしている人達から「相談窓口を是非開きたい」という相談がボランティアセンターにありました。

その人達は専門的に勉強しておられて、引きこもりのサロンを開くとか、他の市で相談窓口をしている人達ですが、その経験から地元の小金井市でも可なり需要があるだろうという事で、先ずひきこもりの人を対象としました。

(山路 憲夫委員長)

これをきっかけにしていろいろな形で広がっていけば良いと思いますが、それをどのように広げていくのが今後の課題だと思います。

ひきこもりの相談窓口を開きたい、という団体からの相談があったのでそれを事業計画の中に盛り込んだけれど、今後どのような形で進めて行くのか、という事が重要だと思います。

(事務局)

ボランティアセンターにはいろいろな人が相談に訪れます。

その中には精神障害の人とか、ひきこもりの人もいます。

例えば、医師から「仕事は無理だから先ずボランティアから始めてはどうか」と云われた人も来ますし、或は両親から「働けないのなら家に居るより、人の役に立つような事をしてはどうか」と云われてボランティアセンターに相談に来た人もいます。

このような人がボランティアセンターを訪ねて来られても受け皿がなく、実はこの問題を今迄にボランティアセンターで抱えていた部分がありました。

そこにひきこもりの支援をしている団体が相談に来られて「自分達がこのような活動をしていることは市民の皆さんにはなかなか知れ渡らないし、他の市で相談窓口を開いてきた経験から、小金井市にも相談に行けなくて困っている人が沢山いるはずだ」というご意見でした。

そこで社協とかボランティアセンターの名前で“相談窓口を開く”という事になれば、信用が増すので相談に来てくれるのではないか、という事で昨年から話し合いを進めてきた結果、このように事業計画という形にしました。

(山路 憲夫委員長)

不登校についても潜在的な問題として非常に深刻ではありますが、学校教育の中では“学校ソーシャルワーカー”というものを都道府県によってはようやく設置して、担任の先生では出来ないような支援を始めています。

これは東京都では広がりつつありますが、まだ不十分だと思いますし、社協がそのところまで関わりを広げていく事は大変だろうと思いますから、その立場の人達と連携を取っていく事も大切だと思います。

(事務局)

不登校となるとすぐ“学校”という事になりますが、30代のひきこもりの人では教育機関には相談出来ないのでは、とりあえずこのような形で進めようと思っています。

(山路 憲夫委員長)

資料1頁の“ボランティア・市民活動への参加推進・啓発”は是非実施して頂きたいと思います。

それは1951年に生まれた団塊の世代が65歳になり、大勢の人が地域に戻ってくる時期になっている事です。

しかし、今の65歳の人達の多くは元気ですが、所謂2025年問題と云われる、この多くの人達が75歳を迎える2025年迄の10年位の間、地域へ戻って来た時に、この人達が地域で何をするのか、というのが大きな課題だと思います。

その人達をどのようにして地域で受け入れて、例えばボランティアセンターの中で活動してもらう機会をどのように作るのか、という事を意識的に是非進めてもらいたいと思います。

来年度以降になると思いますが、この事について何か具体的な案等はありませんか。例えば、“お父さんの料理教室”もその一例だと思います。

(事務局)

是非、皆さんと一緒に考えて頂きたいと思います。

(山路 憲夫委員長)

小平市や武蔵野市の社協では“お父さん、お帰りなさい”パーティを行なっていて、小平市ではそこで知り合ったお父さんたちが、自分達でサークルを作る等、活動していくきっかけになっている、という事を聞いたのですが、最近はそれを止めているという事でしたので、やはり社協が粘り強く取り組んでいかないと、他ではやらないと思います。

(亘理 千鶴子副委員長)

小金井市は公民館が非常にしっかりしてしまっていて、多くのサークル活動を立ち上げる等、いろいろな企画を立てて活動していますので、意欲さえあれば自分が希望する活動の場を探すことは出来ると思います。

(山路 憲夫委員長)

公民館のサークル活動に、退職された人達が参加して活動しておられるわけですね。

(亙理 千鶴子副委員長)

はい、そうです。生き活きとして活動されています。

また、自宅におられる人を地域活動の場に出してくれるようにするにはどうするかとか、若者の居場所的な事についても話し合っています。

私はここの運営委員会に初めて出席して「此处でこういう事を話し合っていたのか」と納得した事が多くあります。

一昨年から昨年にかけて生涯学習支援センター創設の要望を社会教育委員の会議から教育長に出していますが、その内容は市民協働支援センター準備室が考えている内容と同じような事を求めています。

生涯学習支援センター創設の目的の一つは、いろいろな機関や団体等の情報が集約されていて、それを誰でも利用できるようなシステムを持っている拠点を作る事だと思います。

例えば公民館で何か事業を始めたい時に、その拠点にアクセスすれば必要な情報が全て手に入れることができるようにする事が目的の一つだと思います。

市民協働支援センター準備室でもこのような情報を持っておられると聞きましたが、現在、どの位のグループを把握していますか。

(福田 協司市民協働推進員)

現在所有しているものには約 400 の団体等の情報が載っています。

ただ、団体によっては掲載する事を好まないところもありますから、各分野で所有しておられるリストとは必ずしも合致しないところもあります。

(山路 憲夫委員長)

ただ今の生涯学習支援センターの話に関連して、天野さんから付け加えて頂く事はございませんか。

(天野 文隆委員)

生涯学習支援センターの創設に向けて、という事で生涯学習課が所管している社会教育委員の会議、図書館が所管している図書館協議会、それに公民館が所管している

公民館運営審議会の三者で話し合っ、提言をしてもらったという経緯があります。

元々は生涯学習支援センターというものの創設を目指していたのですが、今は市の財政的な状況だとか、土地あるいは場所がないという事で、“箱もの”を作るのは難しいという事になり、最終的には“生涯学習支援センター機能の創設に向けて”という形の提言を纏めて頂きました。

その内容としては、例えば図書館、公民館、或は生涯学習課では夫々が情報は持っていますが、同じ生涯学習に関わる情報を流しているのに、例えば体育館ではスポーツに関わる情報だけ、公民館では講座に関わる情報だけしか得られない、というように統一されていないので、それを何処か1カ所にいけば生涯学習に関わる全ての情報が得られるように出来ないか、或は何か申込み等が必要な場合でも同様に1カ所で出来ないか、というところからスタートして提言を纏めて頂きました。

最終的には先ほど申し上げたように“箱もの”は難しいという事で、例えば役所の何処かにパソコン1台を置き、そこに窓口としての職員1名がいるような、コーナーのようなものだけでも良いから出来ないか、という内容の提言を昨年8月末に纏めて頂き、それを教育長に提出して頂きました。

それから先程公民館の講座のお話が出ましたので、生涯学習課の宣伝をさせて頂きたいのですが、それは資料5の1頁の一番下に書かれている「団塊の世代のための地域参加講座」の講師を此処の準備室にお願いしましたが、この講座は今年から「シニア世代の地域参加講座」と名前を変えて、講師を“シニアSOHO小金井”というNPO法人に委託しています。

この講座は定年退職された人達やこれから定年を迎える人達に、地域で活動してもらうための準備として、小金井市のいろいろな事を知ってもらう事と活動の場を紹介するもので、1年に6回前後開いており、それによって地域で活躍して頂く人達が増える事を期待しています。

(山路 憲夫委員長)

いろいろな事に取り組んでおられることが良く分かりました。

いろいろな人達が例えば講座の内容であるとか、いろいろな情報にアクセスし易くなるという事ですね。

例えばボランティアセンターに関わって下さる人達の組織化であるとか、或はネットワーク作り等のための情報を提供して出来た組織とどのように連携していくか、という事だと思います。

近江屋さん、地域の居場所作りについて提案して頂けるという事でしたが、何か具体的なものはありますか。

(事務局)

7番目の議題の中でご相談させて頂きたいと思っています。

(山路 憲夫委員長)

それでは7番目の議題に入る前に、事業計画に関連して他にご意見等はございますか。

(熊谷 紀良委員)

ボランティアセンターが行なう講座の事ですが、ボランティア活動として必要とされているいろいろな活動があるはずなので、これに繋がるような講座があっても良いと思います。

例えば、今後介護保険が変わってくる中で“生活支援”という事で、地域の人達を支えていくためのいろいろなサービスが求められてくると思います。

このサービスをボランティアとして支えて行きたいという人達もいると思いますが、非営利だけでなく組織を作って支えて行きたいという人達もいると思います。

そこで、例えば活動計画の中に“NPOとはどのようなもので、どのようにして作るのか”というような講座もあって良いのではないかと思います。

また、ボランティアセンターとして「地域の中でこのような事をやってみませんか」と提案出来るような内容の講座があっても良いのではないかと思います。

(山路 憲夫委員長)

それは“準備室”という名前が外れれば、ボランティアやNPO支援についてもそうですが、いろいろな講座が本格的になると思いますが、それまでの繋ぎとして準備室も含めてご指摘のような支援が出来ないかどうかだと思います。

それも含めて来年度の事業として意識させて頂きたいと思っています。

(山路 憲夫委員長)

その他如何でしょうか。

先程小早川さんがご紹介された“災害時の体制整備の強化”に関連して、自治体に

よっては福祉避難所 がなかなか出来ない傾向にある、と新聞報道にもありましたが、小金井市では福祉避難所という形では具体化しているのですか。

(梶野 ひづる 委員)

福祉避難所というものを幾つかの施設と協定を結んでいますし、それ以外にもルーテル学院大学とも協定を結んでいます。

最初は保育園だけでしたが、今は介護施設や障害者福祉センター等もそうですが、福祉避難所はいろいろな所に広がっています。

(山路 憲夫 委員長)

大学が引き受けてくれれば敷地が広いから良いですね。

(梶野 ひづる 委員)

ルーテル学院大学は小金井市の東地区とは隣接していますのでお願いしました。

(山路 憲夫 委員長)

国立大学は国立大学法人になっていますが、学芸大学は福祉避難所として受け入れてくれるのですか。

(梶野 ひづる 委員)

福祉避難所というのは、介護であるとか特別の配慮が必要な人達のための一時的な避難所となっていますので、しばらくの間はその場所で生活をしてもらうという事を考えていまして、ルーテル大学は福祉系の大学なのでお願いしました。

(山路 憲夫 委員長)

障害者とか要介護の高齢者とか、所謂、要介護者が対象ですね。

(梶野 ひづる 委員)

一時的には通常の避難所でも何らかの配慮が出来たとしても、避難生活がしばらく続くようになると、そこでは難しい面があると思います。

(山路 憲夫委員長)

東日本大震災の時は福祉避難所としては機能しなくて、その教訓から福祉避難所をきちっと位置付けて、事前に作っていこう、という事になったわけです。

(山路 憲夫委員長)

その他にご意見はございませんか。

ご意見も無いようですから、事業計画については事務局が報告した内容に、今まで出たご意見を生かすような形とする事で承認し、次の議題に移ります。

7) 運営委員会のあり方について

初めに事務局より次のような提案があった。

(事務局)

この運営委員会は1年に3回開かれています。ここでは限られた時間の中で事業計画や事業報告を初め、形式的な報告等しかできませんので、ここで頂いたご意見やご提案を更に具体化していくための意見交換をこの運営委員会の中で行なう事が大変困難な状態です。

そこで委員の皆さんのご同意が得られれば、例えば“居場所作り”というような特別なテーマを進めて行くために、小委員会とか課題別委員会のようなものを作り、そこで意見交換等を行なって、問題解決に繋げていきたいと考えています。

申し訳ありませんが、この会への参加はボランティアでお願いする事になると思いますし、当日、時間的にご都合が付く委員さんをお願いしたいと思っています。

(事務局)

この件は前回のこの運営委員会で平野委員さんから「運営委員会で良い意見が出て、そこでは次の段階、更にその先へは進まないの、運営委員も一緒になって考えるような仕組みを作ってはどうか」という主旨のご提案を頂いた事が発端です。

今は地域の“居場所作り”を進め、そして強化していこうという事になっていますので、どのような居場所が求められているのか、場所とかお金の問題はどうか、更に担い手の問題等を含めて、これを最初のテーマとして小委員会或は課題別委員会のような場を設けて、そこでご相談させていただけないだろうかと思っています。

(山路 憲夫委員長)

ただ今の事務局の提案については如何でしょうか。

(平野 尚委員)

“居場所”といっても範囲が広いので大変ですし、それも対象が子どもなのか、高齢者なのか、或は障害者なのかと沢山ありますから、考えるのには大変だと思います。

(山路 憲夫委員長)

確におっしゃる通りだと思います。

ただ、地域の特性やニーズに応じていろいろな事に取り組んでいけば良いのではないかと、という気はします。

(平野 尚委員)

居場所作りはボランティアセンターが主体となって進めるのか、或はいろいろな団体や個人が“居場所作り”を進めていますので、その人達の活動状況を把握しながら横の連携が取れるようにコーディネートをする事で進めるのか、むしろボランティアセンターとしての役割は後者ではないかと思っています。

また、ボランティアセンターが上から目線で“居場所作り”を進めていくと、範囲が限られてくると思います。

森田さんが作る居場所、私が作る居場所、或は他の人が作る居場所は夫々違いますから、これらを繋いでいくためのリーダーシップを発揮するのがボランティアセンターの役割だと思います。

(熊谷 紀良委員)

そういう意味では、実際に“居場所作り”をしている人達の意見を聞く場があっても良いですね。

そこでは“居場所作り”をしている人達や、これから始めたいと考えている人達にとって、どのような条件があれば取組み易いのか、どのような支援が必要か、というような、これらの人達の役に立つ話があっても良いと思いますし、そこには場合によってはこの委員会の延長になるかも知れませんが、委員以外の人にも加わってもらうのも良いのではないかと思っています。

(山路 憲夫委員長)

白梅学園大学では2年前に“小平西地区ネットワーク”というものを立ち上げ、住民の人達に呼びかけて、NPOや市民活動をしている団体が参加して“ほっとスペースつき”という名前の“居場所作り”を始めましたが、自宅を居場所として無償で提供して下さった所が2か所になりました。

此処には高齢者や障害者、或は親子連れの人も来まして、そこでは学生も少し手伝っていろいろな事を行っています。

全体的にこのような居場所が地域に少ないために、最近になって“居場所作り”が話題になって、いろいろな人がいろいろな“居場所作り”をしています。

1980年代はボランティアで行なっていた“宅老所”というものがあったのですが、介護保険制度が出来てからはこれが“小規模多機能住宅”という名前に変わり、内容も変わってしまい、以前の“宅老所”の良さがなくなってしまいました。

一方、今回の介護保険の改正を機にいろいろな地域で、いろいろな“居場所作り”の機運が盛り上がっていますから、事務局の提案は進めても良いのではないかと思います。

(平野 尚委員)

私はNPOを立ち上げ、自宅の駐車場でいろいろな事を進めてきた結果、いろいろな意見を聞くことが出来るようになりました。

今後はもう少し場所を確保して活動の範囲を広げたいと思っていますが、私が出る範囲は自ずと決まってくるので、何人かのリーダーにゆだねる事になると思いますが、そこで私が出る事は、そのリーダー達が活動し易くするための援助をする事だと思います。

私は初期投資をこちらで負担するのは止むを得ないと思っていますが、皆さんが利用するわけですからランニングコスト位は利用者負担にする事をお互いに理解する事が大切だと思います。

また、“居場所作り”という言葉だけで纏めようとする、夫々の団体が持っている考え方や目的は異なるので、集約していくのは大変な作業だと思います。

(山路 憲夫委員長)

いろいろあって良いのではないのでしょうか。

ただ、小平市の場合も場所は無料で借りる事が出来ても、光熱費は発生していますから、そのような費用を如何にして捻出するのが課題だろうと思います。

今後、話し合いを進めて行くといろいろな課題が出てくるだろうと思いますが、とにかくスタートさせて、何が必要で何が出来るのかを議論してみてもどうか、と思いますが如何でしょうか。

この会にはボランティアで参加して頂く事になりますが、地域の情報も集め、知恵を出しながら進めてみる、という事でしょうか。

(山路 憲夫委員長)

この件については宜しいでしょうか。

他にご意見はございませんか。

ご意見も無いようなので、とりあえず居場所をメインテーマとした小委員会をスタートさせる事で合意を頂いた、という事で宜しいでしょうか。

(山路 憲夫委員長)

それでは 25 年度第 3 回運営委員会はこれで終わりますが、次回、平成 26 年度第 1 回運営委員会は 6 月頃に開催するように副委員長、事務局と調整し、ご連絡いたします。

本日はありがとうございました。

—以上—